

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673500098
法人名	医療法人 小山クリニック
事業所名	グループホーム れんげそう 1ユニット
所在地	鹿児島県南さつま市金峰町尾下390番地 (電話) 0993-77-2646
自己評価作成日	令和5年2月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物からは幼いころから見慣れている霊峰金峰山が眺められ、目の前は広い田園風景が広がっていますが、すぐ近くにコンビニエンスストアも新たに出来て住みやすい環境になっています。長い期間コロナ感染症予防対策で窮屈な生活が続いていましたが、徐々に緩和され以前のようにお出かけも出来るようになってきました。施設内は木造つくりで木のぬくもりが感じられ、明るい雰囲気です生活できるよう工夫されています。平成17年開設当初より自分らしさや誇りを持てる暮らしのお手伝いを理念に掲げて数多くの看取りが実践されており、今後も併設されら小規模多機能ホームや24時間対応できるクリニックと共に地域に愛される施設運営に努めていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かな南さつま市金峰町尾下地区の一角に平成18年に設置されており、周辺には田布施小学校(令和5年3月廃校予定)や郵便局、商店、一般住宅、水田等があり金峰山が望めている。同法人の小規模多機能ホームが併設されており、日頃から情報を共有し災害訓練を合同で実施するなど協力体制を築いている。

法人母体でもある協力医療機関とは日常的に利用者の身体状況を確認するなど密に連携を図り訪問診療や訪問看護も定期的実施されており、状態の変化時には昼夜を問わず早期の対応がされて利用者や家族の安心に繋がっている。重度化や看取りの対応も利用者や家族の思いを十分に汲み取り、主治医の指示を受けながらチーム体制で取り組んでおり、これまでに多数の看取りを実施している。

開設以来、地域との交流を大切に、校区のイベントへの参加や散歩や買い物時の会話、友人やボランティアの受け入れ、住民からの寄せられる認知症ケア等の相談を受けたり、農産物を頂くなど良好な関係を築いている。コロナ禍で地域のイベントの多くが中止され、ホームの行事も外部の参加は控えて貰い利用者と職員とで実施しているが、収束状況を確認しながら買い物や花見等を徐々に再開したい意向である。

管理者及び職員は理念に沿って、人生の先輩である利用者の誇りや尊厳を常に意識し、特性を尊重したその人らしい生きがいのある暮らしの支援に努めている。

管理者および職員(全員有資格者)は信頼と協力のある良好な人間関係を築いており、日頃の業務の中や職員会議、個別面談等で意見や要望を出し合い改善に取り組んでいる。管理者は研修の実施やケアへの助言を日常的に行い、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的な事情も十分配慮するなど働きやすい環境作りに努めており、職員の定着率も高い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	その人らしい暮らしの実現を目指す理念は理解するが、業務優先になってしまう現実がある。残存機能を生かしたケアの実現に向けて連携を深め資質向上を図りたい。	理念と接遇スローガンを事務所やリビング等に掲示しパンフレットにも記載して周知を図っており、利用者の人格や尊厳を大切にその人らしい平穏な日々が過ごせる支援に努めている。日頃の業務の中や職員会議等で振り返りや意見交換を行って、理念に沿った利用者主体のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症への対応もあり地域との交流はほとんどできていないが、規制も徐々に緩和されており、以前のような交流が出来るようにしたい。	従来より地域の情報を把握しイベントへの参加や小学校の運動会の見物、ボランティアや友人知人の来訪、実習生等の受け入れ、買い物や散歩時の会話、住民からの相談対応、食材の地元購入など交流に努めてきているが、コロナ禍に配慮して現在は外出や実習生、ボランティアの受け入れ等は控えている。コロナ感染の収束状況を把握しながら、徐々に交流の再開を検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	感染症予防対策で地域交流が出来ない状況が続いているが、研修生の受け入れや地域へ積極的に出かけるなど、できるところから再開して認知症への理解を深めたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ対策に振り回される日々が続く、会議が中断してしまう状況が続いてしまった。早急に再開してサービス向上に努めたい。	会議は利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター等が参加して定期的（年6回）に開催しているが、コロナ禍に配慮して書面での会議が続いている。ホームの現況や行事、感染症対応、身体拘束等について報告し、委員からは意見等を文書で貰って改善に繋げている。今後は収束状況を把握しながら対面での会議開催も検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の折りワクチン接種や感染症対応等密な連携が行われている。今後も事業所の実情やケア状況など連携し協力関係を続けていきたい。	市役所本所や金峰支所の窓口に出向いたり電話、FAX等で介護保険や各種制度、コロナ禍対応の協議を行い助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。包括支援センターとも利用者の入退所に関する連携に努め、市からのメールでの連絡事項の把握やズWEBによる研修にも参加して改善に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒リスクの高い利用者に対しての対応が拘束対象になりがちだが、密な情報共有を行い行動制限にならないケアの実践に努めている。	身体拘束の適正化を図る「身体拘束廃止に関する指針」を整備し委員会も3か月毎に開催しており、研修の実施で認識を共有している。スピーチロックを含む不適切な言動には、その都度助言し合って改善に努め、不安定な状況の利用者には対話や散歩（園庭の植物と一緒に愛でる等）で安定を図っている。人感センサーの使用についてはプランに反映させ家族も了解している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の知識向上や相手の気持ちに寄り添うケアを提供できるよう、また尊厳を損なうような言動や対応が行われないうように、声を掛け注意しあって防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解する機会も少ないが、これからますます独居老人が増えてくる中、成年後見制度など更に必要になると思われ、その時活用できるように学ぶ機会を設けたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の問い合わせや申し込み時から不安や疑問点をお伺いし、しっかり納得してから契約していただくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接会って意見をお聞きする機会が少なくなっていたが、これから改善される方向にあり、多くのご意見を伺いしてより良い運営に反映できるよう努めている。	日頃から利用者や家族には意見等を言い易い雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、手紙等で、また、毎月「れんげそう便り」を送付して気軽に意見を貰うように取り組んでおり、内容を職員会議等で協議して改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が集まって意見を聞く機会が少なくなっていたが、徐々に改善される方向にあり、多くの意見を反映できる運営に努めたい。	管理者及び職員は協力と信頼の関係を築いており、業務の中や職員会議時に要望や意見を出し合い、また個人面談でも把握しており、内容によっては法人本部とも協議しながら改善を図っている。ケアへの助言や研修に努め、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。全職員が有資格者で給与等の体制も充実されて職員の定着率が高い。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算等により労働環境は大幅に改善されているが、更に働きやすい職場環境の為にも評価制度の導入など働きやすい職場づくりを目指したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員同士で声を掛け合い学び帰す努力をしているが、多くの知識を得るためにも研修機会を増やしスキルアップを目指したい。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>直接の交流は出来ない状態が続いているが、ネット利用の活用で研修の機会を設けサービスの向上に取り組みたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント情報や特に不安に思っている事柄など、訴えに傾聴して利用者との信頼関係の構築に努め、心地よい居場所になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや心配事などお聞きしてその気持ちに寄り添い、一緒にサポートできるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族や今までの支援スタッフからの情報集を密に行い、偏りのないサービス提供になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者とのみの関係性ではなく、家族と同じような気持ちで接する関係づくりに努め、楽しく安心して暮らせる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策とはいえ対面での面会が制限される環境が続いて不安に思っている家族も多いが、徐々に改善されており一緒に支え合って生活を支えていくパートナー関係になるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長引く感染症対策で馴染みの場所や人との関係が薄くなっているが、お手紙や電話を活用する等工夫して、大事にしてきた関係性が途切れないよう努めている。	利用者毎の馴染みの状況を共有し、家族の意向も確認して支援している。感染予防に配慮しながら家族、友人等との面会や訪問理・美容、周辺の散歩、買い物を楽しんでいる。特に家族の面会は利用者の心情に配慮して月1回は実施してもらえるように工夫し、電話や手紙の取り次ぎ、毎月発行の「れんげそう便り」で状況を伝える等関係の継続に努めている。携帯電話を所有している利用者は日常的に馴染みの人と会話している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な疾患や認知症レベルの違い、今までの生活環境の違いなどで一律な生活が困難な場面もあるが、その人らしい思いで生活が送れるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終末期までの利用が多く関係性は途切れてしまうのは仕方ないが、介護保険サービスの相談があれば対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの詳しい意向確認は難しい事が多いが、日常生活の中で本人の気持ちを代弁できるよう把握に努めている。	重度化で会話やコミュニケーションが困難な利用者もいるが、個々の思いを日頃の会話や仕草等で汲み取り、その人らしい生きがいのある暮らしとなるよう家族とも連携して支援している。選択肢の提示や問いかけ等で意向を確認し自己決定を尊重したケアに努めており、趣味（新聞の購読、音楽やテレビの視聴、ぬり絵他）や菜園の手入れ、食事の手伝い等もプランに反映させて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人・利用していた事業所情報などからそれまでの生活状況の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の生活状況は記録や申し送り等で情報共有し、スムーズに把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族やスタッフ、医療関係者などそれぞれ連携をとりながら、現状に沿った介護計画作成に取り組んでいる。	本人・家族の思いを汲み取り、主治医の指示やモニタリング及び職員会議時の意見を基に介護計画を作成しており、改善目標や楽しみごとにも配慮した内容になっている。ケアの実施状況は申し送りや業務日誌等で共有し、状態の変化時には実態に沿って変更しており、計画の内容は家族にも説明して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やスタッフの申し送りなどで情報を共有し、必要な医療情報も医師・訪問看護師等から収集して介護計画の作成や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化や入院など色々な対応に苦慮することはあるが、その人に合ったサービス提供が行われるよう努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で豊かな地域資源の活用は思うようになっていないが、住み慣れた地域で過ごせる思いを共有しながら楽しく生活できるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や家族との連携を密に取り、希望する検査や治療が早期に受けられるよう支援している。	利用者毎に病歴等を把握し本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）が実施され、専門医受診は家族と協力して対応するなど適切な医療が受けられている。看護師の訪問も週2回あり衛生や健康管理を徹底し、協力医療機関とは日常的に状態を確認し合うなど連携も十分で、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	母体クリニックとの密な連携により、医療指示や必要な連絡などリアルタイムで情報を受けることが出来、安心して医療が受けられる体制が出来ている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	入院時は連携書類により情報提供や必要な物品の提供など協力体制があり、退院時はスムーズな受け入れ態勢が出来るようにしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に急変時の対応や終末期への意向などお伺いして、書面での意向確認を実施、体調変化に合わせてその都度意向を確認し、家族の意向に沿った終末ケア・看取りが実践されている。	「重度化した場合の対応に係る指針」や「終末期における看取り介護のあり方」を整備し入所時や病状の変化に応じて本人や家族に説明して理解を得ており、事前意思確認書も貰っている。平穏な生活の延長上に看取りがあるという考えのもと、可能な限り利用者や家族の意向に沿ってチーム体制で取り組んでおり、これまでも多くの看取りを実施している。看取り後は振り返りを行ってスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	体調急変時や事故発生時・感染症対策など対応訓練を行っているが、特に夜間一人体制での不安は尽きない。繰り返し訓練を来なって実践力を見につけるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期の火災避難訓練等は定期的に行われているがコロナ禍で地域との連携が出来ていない。全職員が対応できるよう地域との連携を図りながら行ってきたい。</p>	<p>年2回（うち1回は消防署立ち合い）夜間発生も想定した火災中心の訓練を隣接の小規模多機能ホームと合同で実施し、避難や通報、消火器等の取扱いの研修も実施している。水害についてはハザードマップに指定されて計画書等の対応を検討している。スプリンクラーや自動通報装置等が設置され、連絡網の整備や設備の定期点検を実施し、災害時の食料や飲料水、介護用品等は3日分程度備えている。BCPについては内容を検討中で、来年度作成予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気ない声掛けでプライバシーを損ねる対応が時々見られている。研修を重ねて繰り返し周知を図りたい。	人格の尊重やプライバシー確保、守秘義務については運営規定や利用契約書等に明記され、研修の実施やケアの中で認識を共有し、利用者の思いや個性も大切に敬愛の気持ちでの対応に努めている。居室への入室時は声掛けやノックを励行し、衣服の選択や余暇時間の過ごし方も自己決定し易いような働きかけで取り組んでいる。情報紙「れんげそう便り」への掲載や居室の氏名の表示についても入所時に意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	一人一人が自己決定できるまでの環境になっていないが、その思いに働きかける支援は行っていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても業務優先で流れてしまう事はあるが、その方がどのような思いで一日を過ごしたいのか思いをはせて希望に添えるよう努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	出来る限りその人の生活にあった身だしなみが出来るよう努めているが、おしゃれを楽しむまでは行っていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は皮むきなど食事準備を一緒に行っていたが、感染症予防対策もあり現在は出来ない。お盆拭きなど片付けは行っている。	利用者の好みや形態、栄養バランス、代替品、季節感等に配慮し菜園の野菜も使って調理しており、状態に応じた介助をプランにも反映させている。おせちや敬老会、クリスマス等の行事食や、花見の弁当、手作りのおやつ、誕生日のケーキ、ウッドデッキでのお茶等、食事が楽しみなものになるよう工夫しており、利用者も片付け等を楽しみながら一緒に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嚥下能力や医療ニーズに合わせて食事形態や水分補給のやり方など工夫して、必要栄養量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にお連れして一緒に歯磨きしたり、できない方はガーゼで拭き取るなどの援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録で把握して、声掛けや誘導を行ってできるだけトイレで排泄できるようにしている。	利用者毎の排泄リズムをチェック表で把握し、心身の状況に配慮しながら昼間は可能な限りトイレでの排泄を2人介助も取り入れながら支援している。安眠を図る為、夜間のみポータブルトイレやオムツを使用する利用者もあり、介護用品の消費が減少するなどの改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その日の状況に合わせてきな粉牛乳や水分補給を勧め、腹部マッサージや体を動かしてもらうなど便秘解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個別の希望に合わせての入浴は出来ていないが、身体状況やその日の気分に合わせて、気分よく入浴できるよう支援を行っている。	利用者の心身の状態に配慮しながら週3回の入浴を基本に、状況によっては清拭、シャワー浴、2人介助も行いながら清潔保持に努めている。温度や時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴で気持ち良く楽しんでもらい、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間の変更や声かけ等を工夫して意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の睡眠状況を把握し良質な睡眠がとれるよう、室温調整やベッドメイキング等個別の状況を考えながら行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況を職員全員が把握し、服薬時は声出しやダブルチェックを行うなど誤薬防止を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできる範囲で希望に応じて趣味活動を行っている。また食後の下膳やお盆拭きなど、能力に合わせて参加出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策があり直接面会が出来ず窓越しになったり、電話対応を行ってきたが、徐々に緩和され直接顔を見ながらの面会が行われている。外出も家族や地域の協力を頂きながら実施していきたい。	コロナ禍により外出計画も十分には実施出来ない状況が続いているが、利用者の状態に応じたケアで園庭や周辺での散歩を日常的に実施し、買い物や他科受診時には街並みや景色を楽しんでいる。室内での軽い体操やゲーム、季節に応じた作品作り等でリフレッシュを図っており、コロナ禍の収束状況を確認しながら徐々にドライブや季節の花見などの取り組みを再開したい意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つことは心の豊かさにもつながることであり、希望に応じて所持したり使う楽しみが持てるよう援助したい。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を使える方は個別に携帯電話を所持したり、出来ない方は職員が手伝いながら家族と連絡できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>感染症対策で必要な換気は利用者のいない時間帯に行ったり、共有スペースには季節や希望に応じて皆様の作品を展示するなど、居心地の良い空間作りに努めている。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは、余裕のあるスペースが確保され天窓のある構造で明るく開放感に満ちており、畳スペースやウッドデッキも設けられている。随所に活花や季節感ある利用者の作品や写真が飾られ調理の音や匂いが伝わるなど、家庭的な雰囲気である。テーブルセット等の家具が動線や対人関係等に配慮して置かれ、清掃や空調、衛生管理を徹底して快適に過ごせる環境になっており、利用者は四季を感じながら平穏に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールでテレビを見たり塗り絵に参加したり、動画を見ながら体を動かすなど思い思いに過ごせるようにしている。一人になりたい時もあり廊下先から金峰山を眺められるようになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内は大切な家族との写真であったり、使い慣れた家具を配置する等居心地よい空間で過ごせるようにしている。</p>	<p>フローリングに腰高窓の居室は余裕がある広さで、エアコン、ベッド、タンスが備えられている。利用者は愛用していた寝具やテレビ、家族写真、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いのプレゼント等も飾ってその人らしい憩える居室となっている。入口の氏名の表示は利用者の意向を確認して対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の居室から迷わず移動できるよう、各居室入り口に表札や写真を飾ったり、トイレ入り口に分かりやすい案内を設けたりと、出来るだけ自立した暮らしやすい環境づくりに努めている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
		○	4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない